

般若心経の現代語訳

西明寺住職 田中雅博

仏説摩訶般若波羅蜜多心経(略して般若心経)のように真言が説かれている経典を秘密経典といいます。秘密とは隠すことではなく、解釈が難しいという意味です。そして解釈とは追体験であり、解釈する対象に精神を集中し真言を唱えます。ここで、その精神集中の対象は「般若波羅蜜多」という名の女性の菩薩です。

般若は智恵、波羅蜜多は完成、「般若波羅蜜多」で「智恵の完成」という意味です。お釈迦様は自己執着を捨てる智恵を説き、その完成を「筏の譬喩」で示されました。苦しみの此岸から安楽の彼岸に筏で渡る。彼岸に渡ったら筏を捨てる。筏は仏教を指し示す隠喩です。彼岸に渡ったなら仏教も捨てる。自己執着を捨てる仏教は、仏教自身に執着しない。このような智恵の「完成」すなわち「波羅蜜多」は譬喩的に「到彼岸」と訳されました。

般若心経の「心」の原語はフリダヤで直訳は「心臓」、ここでは「真言」を意味します。「経」の原語はスートラで直訳は「経糸(たていと)」、仏陀の教えを書いた貝葉の二箇所に穴をあけて二本の糸で貫いて保存したことに由来し、仏陀の教説を「経」といいます。

仏説摩訶般若波羅蜜多心経

仏陀が大般若波羅蜜多菩薩の真言を説いた経

観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見

観ることが自在という名の修行者、観自在菩薩が、大般若波羅蜜多菩薩に精神集中を行って、筏の譬喩で指し示される智恵が完成した状態に於いて、自己自身を観た。

五蘊皆空 度一切苦厄

お釈迦様は一切の苦しみを五取蘊苦に纏められた。五取蘊苦は、自分という幹から出た五つの枝としての自己執着であった。そして、観自在菩薩は、智恵が完成した状態に於いて、これら五つの自己執着が皆空っぽであることを観察した。一切の苦しみを纏めた五つの自己執着が空っぽになったということは、一切の苦しみを離れて安楽の彼岸に渡ったことになる。

舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是

九官鳥を意味するシャーリという母親の子という名の修行者、舍利子よ、ここ、智恵が完成した彼岸に於いては、五つの自己執着の一番目であるところの、この身体が我であり我がものであるという執着、すなわち色は、そのような執着がすべて空っぽになった存在、すなわち空性であり、空性こそが、ここでの色なのである。色は、智恵が完成した状態に於いては、空性と異なることはなく、空性は色と異なることはない。五取蘊の残り四つの枝であるところの、自分の感覚、表象、意思、および認識という執着も同様に空っぽになった状態である。

舍利子是 諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不増不減

舍利子よ、ここ、智恵が完成した彼岸に於いては、一切の要素は、空性と同じ姿であり、生ずることもなく、滅することもなく、汚れることもなく、汚れを離れることもなく、損滅することもなく、円満することも無い。

是故空中 無色 無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界乃至無意識界

この故に舍利子よ、空性に於いては、私の身体という執着は無く、感覚、表象、意思、および認識という執着も無く、私の眼、耳、鼻、舌、身、意の各能力という執着も無く、これらの対象としての色、声、香、味、触、法という執着も無く、各能力と対象の組み合わせから生ずる六種の認識という執着も無い。

無無明 亦無無明尽 乃至無老死 亦無老死尽 無苦集滅道 無智 亦無得

彼岸に於いては、筏を捨てるという喩えの如く、筏に譬えられた仏教という執着もないから、お釈迦様が完全なる覚醒者となられたときに覚られた苦しみが生滅する十二の因縁という執着も無く、そして説法された四つの真理さえにも執着が無い。同様に主観として知る智恵という執着も無く、客観として得る智恵という執着もない。

以無所得故 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故 心無罣礙 無罣礙故 無有恐怖
遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃

この故に執着の縄は解き放たれ、完全なる覚醒を求めて修行している者達にとって、般若波羅蜜多菩薩を依所とすれば、心は自由自在となる。心が自由自在な存在だから、恐れが無く、生死の循環を離れ、大河を越えて涅槃の彼岸に渡る。

三世諸仏 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提

過去現在未来の一切の完全なる覚醒者達は、般若波羅蜜多菩薩を依り所として、この上ない完全なる覚醒に目覚められた。

故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪 是無等等呪 能除一切
苦 真實不虛故

故に知られるべきである、般若波羅蜜多菩薩の大いなる真言は、大いなる真理の真言、この上ない真言、比べるものない真言であり、一切の苦を除く、真實不虛妄である。

説般若波羅蜜多呪 即説呪曰

般若波羅蜜多菩薩について、真言は次のように説かれた。

羯諦 羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提 娑婆訶

行った女性よ 行った女性よ 彼の岸に行った女性よ 完全に彼の岸に行った女性よ 仏陀としての覚醒
幸あれ

般若心経

これで般若波羅蜜多菩薩の真言を説き終わる。